

. ま と め

．まとめ

1．香椎地区シーブルー事業による環境改善効果および今後の課題

香椎地区（御島）における覆砂による海底の底質や生物相の改善効果は次のとおりである。

底質では、有機物量、硫化物量が減少し、粒径が増大しており、有機物量、粒径は全地点で望ましい基準を現在まで維持しているなどの改善効果が認められる。

生物相では底生生物の種類や個体数、湿重量が増え、魚類の多様化や海藻草類の生育などの効果が認められる。

特に底生生物では、干潟・浅海域の物質循環や浄化能力に重要な役割を果たすことが知られているアサリなどの二枚貝やゴカイなどが覆砂区で増加しており、魚類では、これらの底生生物を餌とするカレイやエイなどの底生魚類が覆砂区で多く確認された。

また、水域の透明度も向上しており、事業前には見られなかったオゴノリなどの海藻類の繁茂や試験アマモの発芽、生育がみられ、これら海藻草類は高次の動物の餌や隠れ家を提供しており、水底質の改善により、食物連鎖が機能する基盤ができつつあり、生物群集の多様化が図られていると考えられる。

香椎地区（御島）における作漥による滞留域の解消や海水交換の促進の改善効果は次のとおりである。

河口域の汚泥浚渫や漥筋の掘削により、河口域で停滞していた河川水が沖に出やすくなり、かつ、沖側の海水が航路、漥筋に沿って御島海域の奥へ入りやすくなったことが確認された。

河口域の停滞により生じていた悪臭が解消されるとともに、潮汐残差流による拡散効果により海水交換の促進が確認された。

以上から、香椎地区（御島）における覆砂と作漥は、海域の水底質、流況を改善し、海に棲む生物の生息環境を良好にし、生物群集の多様化に寄与したものと考えられ、当該地区の整備方針である「生物の棲みやすい環境の創造」に非常に有効であったと考えられる。

なお、覆砂区での底生生物の増加や、沈降する浮泥などの影響により、底泥の栄養塩溶出量やDO消費量の削減効果は明確に確認できなかった。今後、的確な把握手法の検討とともに、浮泥対策や、さらに長期にわたる改善効果の持続性の把握などの検討が必要である。

2. 委員会からの提言

本事業における環境改善効果の評価及び報告書のとりまとめにあたって、「香椎地区(御島)シーブルー事業効果検討委員会」から、提言をいただいたので次に記載する。

委員会の提言

香椎地区における覆砂及び作澇^{れい}は、事業開始後からこれまで、御島海域の底質、流況環境の改善に有効であり、生物生息環境の創造にも効果が認められる。

本調査により明らかとなった覆砂や作澇^{れい}の改善効果を今後、さらに長期に持続させ、かつ、今回の知見を今後の施策に活かしていくために、次の事項についての検討および仕組みづくりが望まれる。

1. 長期的な視点から効果持続性の把握

御島海域の覆砂、作澇^{れい}の改善効果により、豊かとなった海域環境を長期に持続させるため、さらに長期的視点からのモニタリングの実施や、浮泥対策の検討。

2. 海藻類の生育環境を活かした藻場づくり

事業効果として新たに確認されたオゴノリ、アマモ等の海藻草類は、ウニ、ナマコなどの餌や稚魚などの隠れ家を提供し、食物連鎖や生物群集の多様化に重要な役割を果たすことから、海藻草類の生育基盤の把握や、御島海域における藻場づくりなど自然再生の検討。

3. 博多湾全体を視野にした検討

博多湾奥部の豊かな自然環境を保全し、人と自然が共生する良好な港湾環境を形成するため、自然再生などの視点から、和白海域などへのシーブルー事業の展開に必要な情報、課題の整理。